

各報道機関担当記者 殿

ダノン病特異的 iPS 細胞を樹立 誘導された心筋細胞の性質は病状によらないことを発見

ダノン病は肥大型心筋症、筋力低下、知能障害を 3 徴とする伴性遺伝形式をとる指定難病で（019-27. ライソゾーム病-Danon 病）、これまで成因、治療法については不明でした。

金沢大学医薬保健研究域医学系循環器病態内科学の山岸正和教授、川尻剛照准教授、吉田昌平助教、附属病院循環器内科の中西千明助教らの研究グループは、医薬保健研究域医学系小児科学の谷内江昭宏教授および太田邦雄准教授らとの共同研究で、心臓病変の程度の異なるダノン病の双生児から iPS 細胞を作製しました。さらに樹立した iPS 細胞から誘導した心筋細胞を用いることで、臨床上の心病変の有無にかかわらず、ダノン病特異的な病態を呈する心筋細胞と正常な心筋細胞のそれぞれを作製できることを明らかにし、その原因が X 染色体の不活性化にあることを突き止めました。

本研究は伴性遺伝性疾患の女性に対して、適切な X 染色体の不活性化を誘導する治療の可能性、さらに自己の iPS 細胞を用いた治療についても可能性を見いだすものです。

つきましては、本件について下記のとおり記者説明会を行いますので、ご案内申し上げます。

記

1. 日時 平成 29 年 12 月 4 日（月）午後 3 時 00 分から（20 分程度を予定）
2. 場所 金沢大学医学図書館 2 階 十全記念スタジオ
（金沢市宝町 13-1）[別紙参照]
3. 説明者 山岸 正和 医薬保健研究域医学系・教授
谷内江昭宏 医薬保健研究域医学系・教授
川尻 剛照 医薬保健研究域医学系・准教授
太田 邦雄 医薬保健研究域医学系・准教授
吉田 昌平 医薬保健研究域医学系・助教
中西 千明 附属病院 循環器内科・助教
4. 内容 パワーポイントによる研究内容の説明

News Release

なお、本研究に係る論文は、国際心臓研究学会機関誌「Journal of Molecular and Cellular Cardiology」に掲載されました（オンライン版公開日：日本時間 平成 29 年 11 月 29 日（水）午前 1 時）。

追記：現在、指定難病を始めとする、種々の難治性疾患特異的な iPS 細胞は、理化学研究所、京都大学が登録管理していますが、本 **Danon 病の iPS 細胞の登録は**見当たらず、**今回の金沢大学での樹立が国内唯一**と思われれます。

研究内容に関するお問い合わせ先：

金沢大学医薬保健研究域医学系 循環器病態内科学

教授 山岸 正和

電話：076-265-2250 または 2259

E-mail：myamagi@med.kanazawa-u.ac.jp

※なお、本研究内容に関する説明会前のお問い合わせは受付いたしません。

取材に関するお問い合わせ先：

総務部広報室戦略企画係 舘 正裕樹

電話：076-264-5024

E-mail：koho@adm.kanazawa-u.ac.jp

医薬保健系事務部総務課医学総務係 上山 聡子

電話：076-265-2109

E-mail：t-isomu@adm.kanazawa-u.ac.jp